

hCG または GnRH 製剤の受卵牛への利用試験中間報告

近年、受卵牛へ hCG または GnRH 製剤等の LH 様作用により、黄体期に副黄体（卵胞を排卵させ 2 個目の黄体を形成）を形成させ黄体機能を強化し、黄体ホルモン濃度を上昇させると、AI または ET による受胎率が向上するという報告がなされています。そこで、JA 全農 ET センターではスタンディング発情日を 0 日として性周期 5 日目の受卵牛（ホルスタイン種未経産牛または F1 未経産牛）に hCG または GnRH 製剤を筋肉内投与した時の ET による受胎率の検討と血中プロゲステロン値（P 値）を測定中です。少数例ですが受胎率のデータが得られましたので中間報告をさせていただきます。またフロリダ州立大学の Thatcher らのグループが Theriogenology 誌（2001 年 12 月号）に報告している内容の一部も紹介させていただきます。現場で ET を実施されている皆様の何らかの参考になれば幸いです。

JA 全農 ET センターにおける hCG または GnRH 製剤投与による受胎率

投与区	例数	移植数	D30 妊娠	D60 妊娠
hCG 区	37	34	28 (82.4%)	26 (76.5%)
GnRH 区	35	26	21 (80.8%)	18 (69.2%)

例数が少ないので、結論はだせませんが、hCG 投与区で受胎率がやや高い傾向が認められました。

性周期 7 日目に GnRH, hCG または LH 投与した後の黄体の大きさと性周期 13-17 日目のプロゲステロン値（P 値）について（Thatcher らのグループ）

投与区	例数	D6 主黄体 (cm)	D13-17 主黄体	D13-17 副黄体	D13-17 P 値(ng/ml)
hCG	8	1.79	2.19	1.75	8.42
GnRH	8	1.84	1.78	1.55	4.79
LH	7	1.69	1.79	1.61	6.07